

## II 浅海増養殖試験事業

### 2 魚病検査

小川 健・木村 創

#### 目 的

持込病魚等の検査・診断を行い、海面魚類養殖における適切な魚病対策を指導する。

#### 方 法

調査依頼のあった病魚等について常法により細菌・寄生虫検査を行い症状観察と併せて診断し、分離菌は必要に応じてディスク法による薬剤感受性試験を実施した。

なお本年度は浅海養殖漁場水質監視システム設置事業により、串本・古座地域浅海漁場（以下浅海漁場という）水深5m層の水温、溶存酸素量および塩素量データをリアルタイムに得、同漁場における魚病対策指導の一助とした。

#### 結 果

1993年度の検査件数は89件で、天然魚の斃死原因調査3件、県外から依頼のトラフグ1件などを含んでいる。

魚種別、月別病魚検査件数を表1に、これを基に、現場での観察や聞き取り情報等と併せて作成した県内魚病分布を図1に示した。

魚種別には、ブリでは類結節症の被害が例年のように約10%出ており、また田辺湾で前年度1年魚に発生した黄胆症が本年度は0年魚にもみられた。黄胆症による被害は1年魚で約20%、0年魚で3%前後であった。

マダイでは、イリドウィルス感染症が由良町の養殖漁場と田辺湾にみられ、0年魚では10~25%、1年魚では1.5%の斃死率であった。また浅海漁場のマダイ0年魚でピバギナ症とエピテリオシスチス症の合併症が発生し、小数の斃死が慢性的に続く状態がみられた。

トラフグでは、8~9月に陸上水槽飼育の0年魚にキロドネラ様の繊毛虫症が発生し、ほぼ全滅した。キロドネラ様の繊毛虫症は海面小割飼育のトラフグやマダイにもみられ、今後注意を要する疾病である。

このほかシマアジで、串本町および白浜町の孵化仔魚にウィルス性神経壊死症とみられる症状での大量斃死が発生した。また、田辺湾および串本町大島漁場のシマアジ1年魚に冬期から春先にかけて *Pseudomonas anguilliseptica* の感染症と推定される疾病の発生があり、1~10%の被害が

表1 1993年度 魚種別・月別病魚持込件数

魚種	病名	1993										1994			計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3月				
ブリ	ビブリオ病・類結節症				1												1
	類結節症			1	2												3
	類結節症・連鎖球菌症				1												1
	連鎖球菌症											1					1
	黄だん症								1								1
	ベネディニア症											1					1
	小計			1	4				1		2						8
マダイ	ビブリオ病											1		1		2	
	ビブリオ病・滑走細菌症	1														1	
	滑走細菌感染症												1	1		2	
	エドワジェラ症								1							1	
	ウーディニウム症												1			1	
	白点病			1				2								3	
	繊毛虫症								1							1	
	ビバギナ症						1							1		2	
	ロンギコラム症				1									1		2	
	滑走細菌・ビバギナ症								1							1	
	エピテリオシスチス症				2	1										3	
	エピテリオシスチス・ビバギナ症					2	1									3	
	リンホシスチス症					1										1	
	イリドウィルス症						1	5	4							10	
その他	1			1											2		
小計	2		1	5	5	11	4		1	2	4				35		
ヒラメ	ビブリオ病		1			2	2									5	
	ビブリオ病・滑走細菌症	1	2							1						4	
	滑走細菌症	6	1					1								8	
	エドワジェラ症	1		1												2	
	エドワジェラ症・連鎖球菌症			1												1	
	連鎖球菌症					3		1		1						5	
	不明					1	1									2	
	小計	8	4	2		6	4	2		1						27	
トラフグ	トリコディナ症				1											1	
	繊毛虫症					1	1									2	
	ギロダクチルス症					1										1	
	ビブリオ症・スクーチカ症														1	1	
	エピテリオシスチス症									1						1	
小計				1	2	1	1							1	6		
シマアジ	細菌感染症													1	1	2	
	不明	1														1	
	その他															1	
小計	1						1						1	1	4		
カンパチ オニオコゼ マイワシ マサバ マイワシ・マサバ	ベネディニア症				1											1	
	真菌症・エピテリオシスチス症							1								1	
	連鎖球菌症									1						1	
	骨格異常 赤潮による斃死			1							1					1	
小計			1	1			1	1	1						5		
クルマエビ アワビ イカ	ビブリオ病				1	1										2	
	ハリフトロス症							1								1	
	筋肉内異物											1				1	
小計				1	1		1				1				4		
合計	11	4	5	12	14	19	9	1	4	3	5	2			89		

出ている。

なお、浅海漁場におけるシーコムシステムによる1993年1～12月の水温、溶存酸素量および塩素量の変化を図2, 3, 4に示した。設置は1992年10月であるために前年との比較はできないが、これらの今後の蓄積は養殖場の天候的環境変動と魚病発生の特性、傾向性を明らかにしていくであろう。

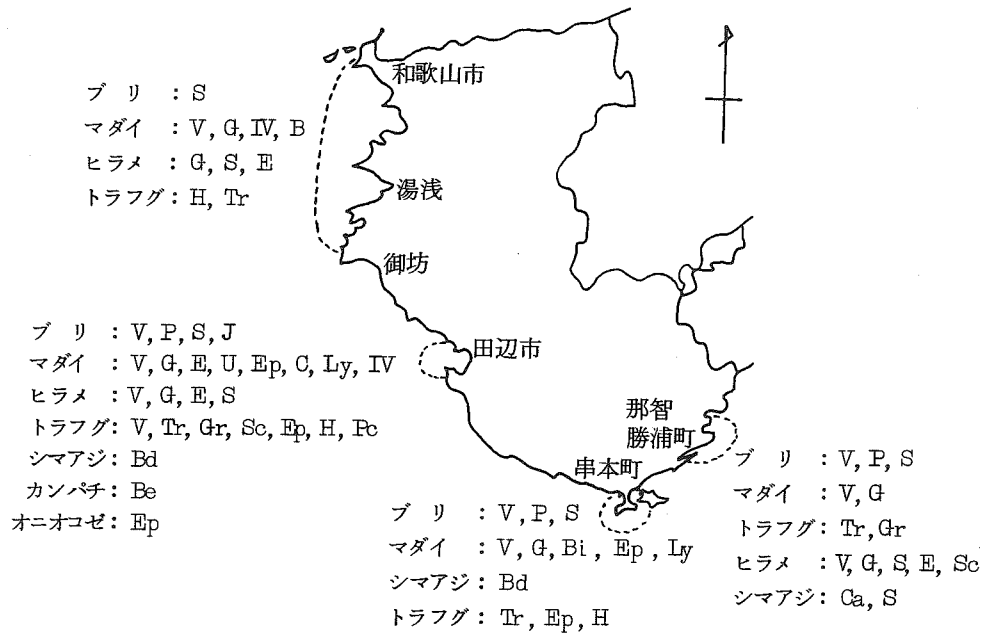


図1 県内魚病分布

- |                |                 |               |               |
|----------------|-----------------|---------------|---------------|
| V : ビブリオ病      | P : 類結節症        | S : 連鎖球菌症     | E : エドワジェラ症   |
| Bd : 細菌感染症     | G : 滑走細菌感染症     | J : 黄だん症      | IV : イリドウィルス症 |
| Ly : リンホシスチス症  | Ep : エピテリオシスチス症 | H : ヘテロボトリウム症 | C : 白点病       |
| Pc : シュードカリグス症 | U : ウーディニウム症    | Gr : ギロダクチルス症 | Sc : スクーチカ症   |
| Bi : ビバギナ症     | Tr : トリコディナ症    | Be : ベネディニア症  | Ca : カリグス症    |

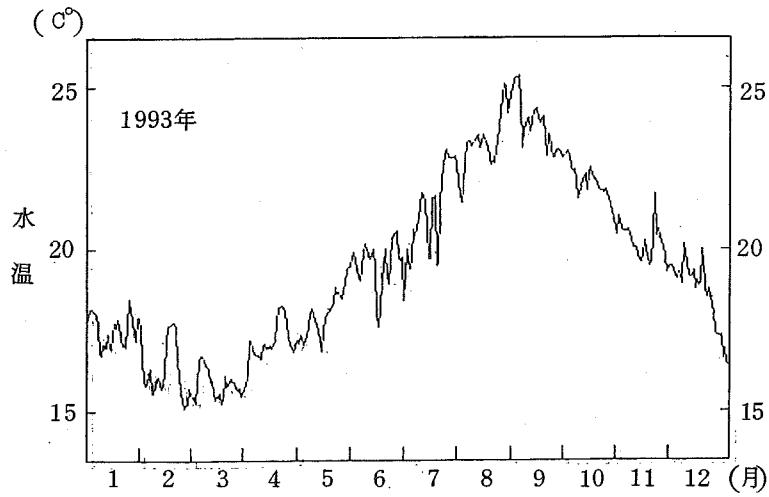


図2 浅海漁場の年間水温変化

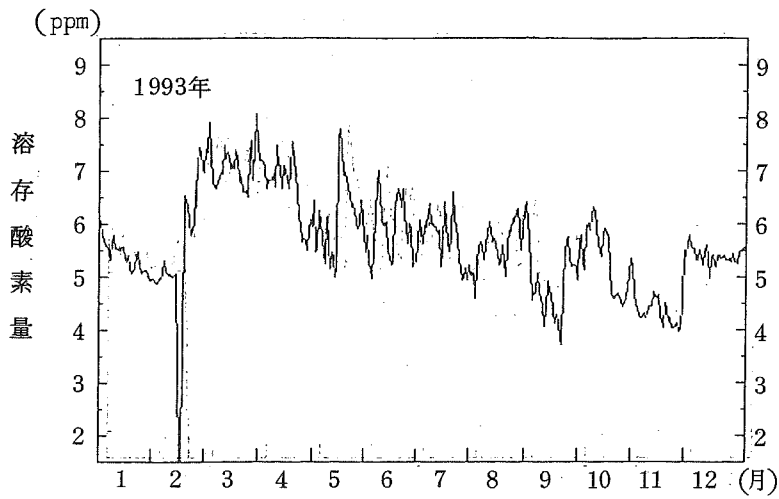


図3 浅海養殖漁場の年間溶存酸素量(DO)変化

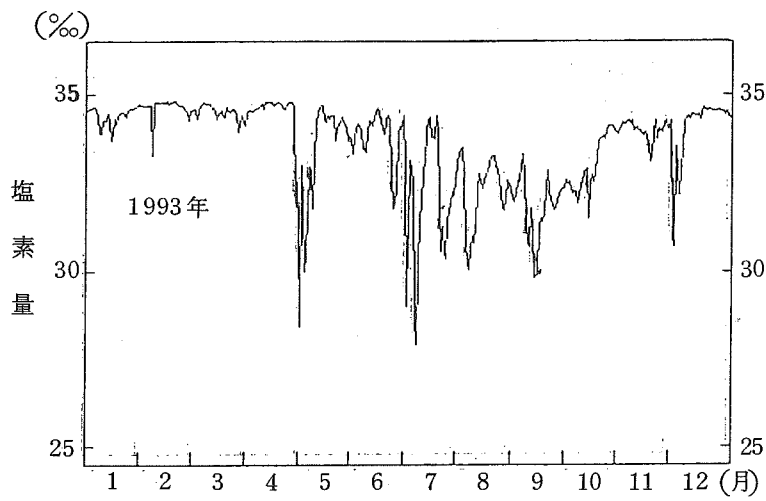


図4 浅海養殖漁場の年間塩素量変化